新　市　町

常陸太田市（ひたちおおた）

1. 沿　革

本市は水戸から北へ汽車で約35分、久慈の清流を渡り、馬の背のような高台を中心に古くから発達した城下町である。ここは県の東北部に位し、東北部は阿武隈の連山および丘陵耕田を境にして日立へ、東南は久慈川を隔だてて那珂町、西北部は金砂郷、水府村にそれぞれ接している。昔この地方には、崇神天皇の御代に美濃国の長幡部族が移住してあしぎぬを織り、天智天皇の御代には、藤原鎌足の封戸があり、鶴ケ池を築堤して灌漑用水を計つたが、坂上田村麿が征旅の時この地に立寄り、美田の多いところから太田の名が生れたそうである。その後藤原秀郷の四世孫通延がきて太田荒太夫と称し、その跡へ佐竹秀義ががきて舞鶴城を築き、その後450年間北関東の豪族として兵馬の権を握り、水戸の江戸氏を討つて水戸城に入つたが佐竹氏が関ケ原の合戦に石田三成に通じたかとで徳川家康に秋田へ移封されるまでその領地に属し、石岡とともに行政の中心地をなしていた。後水戸藩主徳川頼房の治下に今り、二代藩主光圀が元禄4年西山荘に隠棲10年の生活を送つて大日本史を編さんし、歴史上は勿論古くから穀倉地帯としても、藩の物資集散地としても非常に重要視されたところである。徳川時代の末期には、中山備前守が約90年間知行し、青竜城となつて明治維新を迎えた。昭和29年7月15日には、太田町と機初、西小沢、幸久、佐竹、誉田、佐都の各村が合体して常陸太田市が誕生し、30年4月1日には世矢村、河内村の一部を編入して、今や面積111.38平方粁、人口39,641人(男19,258、女20,383)、世帯数7,697を有する商業兼田園都市として再発足したのである。ここには県の支所をはじめ、土木事務所、保健所、職業安定所、職業補導所、土地改良事務所、農業改良相談所、税務署、建設省常陸工事事務所労働基準監督署、農林省調査統計事務所や食糧事務所の出張所、専売公社出張所、太田一、二高などがあつて、県北における行政、教育、産業、経済、交通上の中心地となり、今後の飛躍的発展が大いに期待されている。

2. 産　業

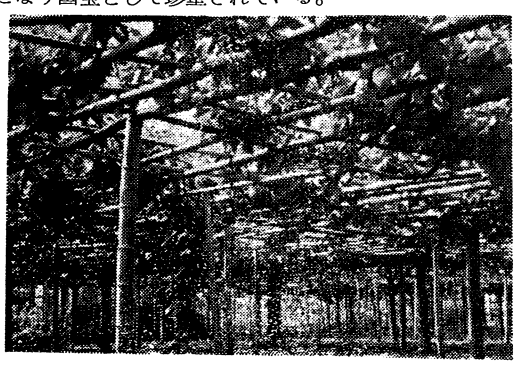
まず農業面を見ると、農家戸数4,691(全戸数の61%)農家人口26,913人(全人口68%)(男13,167、女13,746)、耕地面積3,200町(田2,022町、畑1,159町、果樹園15町、その他4町)を有し(昭和31年8月1日夏期調査)、特に県北における米どころといわれている。畑作物の特産物としてはさつまいも109町、たばこ149町、なし13町に達しているが、特に水府たばこは年産28万9,000kg、なしは世矢西小沢地区で年産9万〆にのぼり、好適な土地、気象などの立地条件から見て今後の増産が期待される。市としても新農村建設計画を立てて土地改良事業を拡充強化するとともに、酪農経営や反当収入の多い作物、二毛作を奨励して効果的な方策を重点的にとりあげて農民生活面の向上を期している。また寒冷地帯へは、わさびやセロリー、水田地帯へは養魚なども普及させようとしている由。また大阪市場を独占している河合ごぼう、久慈川、里川の若鮎も有名である。

次に畜産面を見ると、乳牛111頭、役牛1,050頭、馬572頭、豚1,025頭、めん羊57頭、山羊553頭、兎1,320頭、にわとり20,599羽にのぼり、(昭和31年2月1日冬期調査)畜産振興計画事業も次第にその成果を現してきた。また農機具の普及状況を見ると、電動機446台、石油発動機530台、動力耕耘機12台、〃脱穀機951台、足踏脱穀機3,436台、動力籾すり機356台、〃製粉機42台、〃精米麦機307台、〃噴霧機16台、人力噴霧機775台、動力撒粉機11台〃製莚機20台、〃製縄機127台、足踏製縄機2,430台、畜力カルチベーター37台、〃砕土機802台、〃すき1,338台畑用播種機89台に達し、特に藁加工などの農家の副業が発達している。(昭和30年8月1日夏期調査)

次に商工業面を見ると、まず法人および常用労働者を有する商店144、従業者数851名、常用労働者のいない商店455、従業者数926名であるが、そのうち菓子パン小売業、野菜果実小売業、酒および調味料品小売業が多い。(昭和31年7月1日商業調査)ここは昔から卸商が発達しており、本県や栃木県方面における重要な地位を占めている。最近卸問屋連合会が新に発足し、見本市やクーポン使用などによつて大きな成果を収め、金融関係も産地金融、自治金融の自主的組織が活発な動きを示している。次に工業事業所は154、従業者数1,052名、年間製造出荷額は実に7億円を突破している。中でも真弓山の大理石、テラゾール製造業や製材、木製品家具製造業が大部分を占めている。(昭和30年12月31日工業調査)またきびの穂がらを利用した座敷箒は年産10万本にのぼり、東北、東京方面へ出荷して好評を博している。

3. 教育文化

ここには高校2、中学校9、小学校12、幼稚園1、各種学校5あつて、高校生徒2,614名(男1,517、女1,097)中学生徒2,778名(男1,410、女1,368)、小学児童5,426名(男2,816、女2,610)園児216名(男108、女106)各種学校生徒女441名を有し、県北地方における教育上の中心地となつている。また公民館分館9があつて農閑期を利用した青年学級を開催したり、青年会の〔青報〕1,000部を毎月発行して、〔市政だより〕の8,200部の毎月各戸配付などとともに社会教育の普及と市政の滲透を計つている。婦人会の活動も活発で、特に瑞竜、落合部落の新生活運動と生活改善は非常に進んでおり、料理講習、共同作業、読書サークル、衣服改良、婦人休養日の励行、因襲打破などを着実に実行して各自の創意工夫による実践に努めている。またここには市営住宅50戸、アパート1県営住宅14戸、建売住宅30戸があり、今後は日立〜太田間の新道建設と相まつて住宅整備による他都市の消費人口の吸収を計つて行こうとしている。ここは歴史的にも古くから全国に知られ、名所旧跡も数多くある。中でも徳川光圀が隠棲して大日本史を編さんした西山荘や水戸徳川家累代の墓所や朱舜水の墓のある瑞竜山、水戸徳川家の菩提寺である日蓮宗久昌寺、水戸八景の一などがある。太田の落雁、太田地方の総鎮守として応永元年鎌倉から分霊した若宮八幡宮、最近修築成つて落慶式を行つた成田山がある。また花山天皇の御代寛和元年真言宗坂東22番の札所として開かれた佐竹寺は、特別保護建造物となり国宝として珍重されている。



(な　し　園)

村の横顔

4. 財政　　昭和31年一般会計歳入歳出予算　　（単位円）

歳入	市税	地方交付税	公企業及財産収入	使用料及び手数料	国庫支出金	県支出金	寄付金	繰入金	繰越金	雑収入	市債	合計
	59,428,636	43,300,000	95,000	3,404,400	15,039,368	1,589,747	100	390,000	50,000	5,371,636	15,850,000	144,518,887

歳出	議会費	市役所費	消防費	土木費	教育費	社会及労働施設費	保健衛生費	産業経済費	財産費	統計調査費	選挙費	公債費	諸支出金	予備費	合計
	3,963,401	45,593,814	8,988,850	10,932,236	20,095,784	19,820,164	9,813,269	11,059,983	3,312,508	477,180	744,500	2,293,937	6,623,261	800,000	144,518,887

総和村（そうわ）

1. 沿革

ここは水戸から汽車で2時間、小山、古河を経て、さらにバスで15分猿島郡の西端に位し、平坦な田畑に恵まれた純農村地帯で西北部は、古河市と栃木県に、東部は三和村に接し、南部は五霞村と利根川に面している。この地方の大部分は昔足利時代古河公方の領地に属し、梁田氏や土井氏、久世氏、下河辺氏などによつて治められたが、徳川時代に入つてからは幕府の直轄地として代官領になつたところも少くない。明治維新後は、一時印藩県や古河県、千葉県などに入つたが、明治7年に茨城県に編入された。昭和30年3月16日には、勝鹿、岡郷、桜井、香取の4カ村が合併じて、各地域住民の融和を計るためにその名もふさわしく総和村が誕生したのである。ここは面積54.03平方粁、人口20,894人（男10,155、女10,739）、世帯数3,277（昭和31年12月1日村調査）にふくれ上つた大農村であるが、今では陸上自衛隊や日赤猿島病院などもあり、今後東北本線の電化や国道のほ装化によつてますます発展して行くものと思われ、今や新役場を中心に全村民一致協力し明るく住みよい郷土を目ざして新しい村作りに着実な足どりを示している。

2. 産業

まず農業面を見ると、農家戸数2,619、農家人口18,024名（男8,718、女9,306）、耕地面積3,003町（田821町、畑1,976町、果樹園5町、茶園59町、桑園97町、その他45町）を有しているが、（昭和31年8月1日夏期調査）特に蔬菜類やさつまいも、猿島茶、桑苗な生産が非常に多い。すなわちさつまいも330町で230万〆、かぼちや200町、白菜、大根200町にのぼり、また桑苗100町で生産200万本、たばこは37町で3,200〆の生産をそれぞれあげている。本県特産物の一である猿島茶は年産30,000〆に達し蔬菜類とともに京浜方面へ出荷されている。畜産面を見ると乳牛89頭、役牛1,102頭、馬255頭、めん羊16頭、山羊140頭、豚116頭、にわとり9,152羽、を有しており（昭和31年2月1日冬期調査）、牛乳、山羊乳2,000石、鶏卵15万個、仔豚2,000頭を京浜方面へ出荷している。特に酪農振興協議会が誕生して乳牛は31年末までに180頭に増加し、将来は牛乳処理場を建設する計画の由。さらに村としては酪農、養豚、養鶏組合の育成に努めて畜産振興策を重点的にとりあげるとともに、蔬菜類の奨励と共同出荷組合の統合強化を計り、新農村建設計画の具体的立案を急いでいる。また農機具の普及状況は、電動機844台、石油発動機924台、動力脱穀機1,653台、足踏脱穀機543台動力籾すり機488台、動力製粉機221台、動力精米麦機628台、人力噴霧機14台、動力噴霧機1,118台、動力製縄機216台、〃製藁機14台、踏製縄機1,261台、動力用カルチベーター289台、〃水田中耕除草機11台、〃砕土機15台、エンシレージカッター11台、人力いも類飼料機23台、畑用播種機307台、畜力すき691台、畑用播種機307台に達し、特に土地の交換分合事業の推進や農事研究グループの育成と相まつて農村電化や畜力利用の普及がめざましい（昭和30年8月1日夏期調査）。なお養蚕農家は、164戸で年間収繭量8,684〆をあげている。

次に商工面を見ると、まず商業では法人および常用労働者を有する商店4、従業者数18名、月間販売額435万円、常用労働者のいない商店170、従業者数267名、月間販売額977万円であるが、大部分は荒物、雑貨、洋品、食品小売業である。また工業面で、事業所数30、従業者料数67名、製造出荷額年間3,162万円に過ぎず、澱粉工場と酸素注入工場が目立つているだけである。

3. 教育文化

ここには小学校4、中学校4があつて、児童数2,866名（男1,484、女1,382）中学生徒数1,448名（男745、女703）を有しているが、合併と同時に施設の拡充強化に努め、全校舎の増、改築を完了した由。また青年、婦人団体の活動も非常に活発で、特に柳橋地区の生活改善事業は、優秀な実績を収めており、他の模範とされている。村では最近新式の映写機を購入して各部落を巡回し、座談会や慰安会を開き、村民とのつながりを深くしようとしている。この村は消防分団が26あつて消防機具一切を可搬式ポンプに切換え、防災、防犯モデル村として再三表彰されている。またここには聖武天皇の御代に僧行基によつて開かれた水海の実相寺をはじめ、多くの寺院があり、江戸時代の学者として有名な熊沢蕃山の墓が大堤畦延寺にある。また地区によつては磨製、打製の土器、石器が発見された古墳もあつて学界からも注目されている。

（交換分合の測量）

昭和31年一般会計歳入歳出予算　　（単位円）

歳入	村税	地方交付税	公企業及財産収入	使用料及び手数料	国庫支出金	県支出金	寄付金	繰越金	雑収入	合計
	26,810,010	13,678,000	54,000	179,600	522,100	421,880	2,000	4,716,209	60,100	46,443,899

歳出	議会費	役場費	警察消防費	土木費	教育費	社会及労働施設費	保健衛生費	産業経済費	財産費	統計調査費	選挙費	公債費	諸支出金	予備費	合計
	1,421,620	14,460,195	1,591,860	3,942,000	12,892,596	535,257	1,009,770	3,388,669	163,880	174,300	411,400	736,500	5,014,358	701,494	46,443,899